

別紙第15号様式（第13条関係）

国立大学法人愛知教育大学最終学長候補者選考結果について（公示）

令和7年10月1日

国立大学法人愛知教育大学学長選考・監察会議

最終学長候補者を選考したので、国立大学法人愛知教育大学学長選考規程第12条の規定に基づき、下記のとおりお知らせします。

記

1 最終学長候補者氏名

野田 敦 敬（のだ あつのり）

[任期：令和8年4月1日～令和12年3月31日（4年）]

2 選考の理由及び過程

[選考の理由]

学長選考・監察会議（以下「選考会議」という。）は、学長候補者の推薦書、履歴書、所信表明書及び選考会議の質問に対する回答書の提出を求め、所信を表明する機会を設けるとともに、学長候補者に対する面接を実施し、教職員による意向聴取の結果を参考として、学長候補者の選考について審議しました。

この結果、野田氏が、国立大学法人愛知教育大学学長選考基準の要件を満たし、教育・研究・研修・広報・財政等についての現状を詳細に把握するとともに、それらを踏まえて諸課題に取り組む具体的なプランを有していることを確認しました。また、意向聴取の結果、野田氏に対する多くの教職員の賛同を確認しました。野田氏は、令和2年4月の学長就任後、「未来共創プラン」の下で、精力的に愛知教育大学の魅力ある取り組みを実行し、その成果の発信に努めるとともに、学内・学外からの意見に真摯に耳を傾け、様々な問題の解決に努めてこられました。今後、少子化時代を本格的に迎え、教員養成系大学を取り巻く環境はますます厳しい局面に入ることが予測されます。今回、新たに学長を選考するにあたり、野田氏が、新たな気持ちと強い覚悟をもってこの難局に立ち向かおうとする決意で臨んでいることを、所信表明、面接等を通して選考会議メンバー全員が感じ取ることができました。

以上を勘案し、野田氏が、教職員の協力の下でさらなるリーダーシップを発揮し、中部地域の広域拠点型教員養成大学としての存在感をより一層高めるとともに、引き続き、愛知教育大学の使命の実現に積極的に取り組んでいくものと判断し、野田氏を最終学長候補者として選考しました。

[選考の過程]

- (1) 令和7年8月1日(金)  
学長候補者選考実施に関する事項を公示
- (2) 令和7年8月25日(月)から9月1日(月)まで  
学長候補適任者の推薦を受付(野田敦敬氏1名)
- (3) 令和7年9月2日(火)  
学長候補者を選出
- (4) 令和7年9月2日(火)  
学長候補者氏名、提出された推薦書及び履歴書を学内に公表(野田敦敬氏1名)
- (5) 令和7年9月12日(金)  
提出された所信表明書及び選考会議が作成した質問の回答書を学内に公表
- (6) 令和7年9月16日(火)  
本学のすべての教職員を対象にした所信を表明する機会を開催  
選考会議による学長候補者の面接を実施
- (7) 令和7年9月24日(水)正午から令和7年9月26日(金)正午まで  
意向聴取を実施(刈谷地区、名古屋地区、岡崎地区)
- (8) 令和7年9月26日(金)  
最終学長候補者を選考
- (9) 令和7年10月1日(水)  
最終学長候補者を公表

以上

学長候補者意向聴取開票記録書

学長候補者意向聴取の開票結果は下記のとおりである。

記

- 1 開票時間                      開始 13時50分～ 終了 13時56分
- 2 意向聴取有資格者              320 名
- 3 投票総数                      237 票
- 4 有効投票数                      222 票
- 5 無効投票数                      15 票  
    (うち白票数                      15 票)

6 開票状況（得票者全員を記載）

順位	氏名	得票数
1	野田 敦敬	認める 214票
		認めない 8票

令和7年9月26日

国立大学法人愛知教育大学学長選考・監察会議

議長名（自署） 鵜飼裕之